
モンスター・ハンター 二人の道

桃内士朗

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

モンスター・ハンター 一人の道

【Zコード】

N5018D

【作者名】

桃内士朗

【あらすじ】

この小説は作者の都合により更新をやめます。時間があれば、新しく始めたいと思います。大変ご迷惑をおかけします。

プロローグ

広く豊な自然の中に、色々な生命が生まれていた。

そう、本当に色々な生命が……。

そんな世界に一人の異世界のものが迷い込んだ。

これは、そんな二人のお話。

1話（前書き）

一言言おう、多分この小説は駄作になる可能性マックスだ！（銃声

「なあ……、『ジジビ』だ？」

「さあ？ 僕に聞かれても困るな」

ヒュ――――――――――。

「寒！」

「寒いな」

雪山に一人の青年がいた。

一人は黒髪で髪がぼさぼさヘヤーの青年で、もう一人がスキンヘッドのだった。

二人は寒そうに体を揺らしている。

「なあ大地、何で俺達こんな格好で吹雪の中にいないといけないんだ？」

聞いてもどうにもならないと分かつていながらも話しかけるぼさぼさヘヤー。

ぼさぼさヘヤーは自分と大地と呼ばれる青年の姿を見ながら聞いた。二人の格好は半袖半ズボンと言ついかにも今夏で暑いのでこんな格好ですと言う人みだつた。

「俺に聞くなよ静間！ 僕も何でこんなことになつてるか知りたいんだよ！ そしてなんか今聞こえなかつたか！？」

大地は怒鳴りながら聞いた。

「気のせいじゃないのか？ つかそろそろあの洞窟に移動しよう。寒くて死にそう」

静間と呼ばれた青年は投げやり気味に提案してみた。

大地はその時上を向いて恐怖していたが、静間はそのことに気がついていなかつた。

「そうだな静間。一刻も早くここから立ち去ろう。というか逃げよう」

言い終わると同時に大地は洞窟に向かつて走り出した。

最後のほうは何か切羽詰つた感じだった。

そして大地が走り始めたと同時に後ろから「スッ」という何か重いものが落ちてきたような音が聞こえてきた。

何だ？ という感じに静間が後ろを向くと、そこにはオレンジ色の体に、青のシマシマのある巨大な生き物が、そこにいた。否、巨大な生き物程度じゃない。

そいつは怪物だった。

それを見た瞬間に静間も大地を追つて走り出した。そしてその後を、その怪物がこちらに気がついたのか、後ろから「ドドドド、とけたたましい音を立てて走ってきた。

走りだした時、怪物との距離は約600m、洞窟との距離は約100mだったが、寒さを忘れ、半分走つた時に数m走つた時に、怪物が静間の前に回りこんできた。

「うおわ！」

目を閉じると同時にパーンと、銃声が響いた。

何だ？ と思いつつも目を開くと、そこには片目を失つた怪物が立っていた。

怪物は自分の目を奪つた奴の姿を探すかのようにあたりをきょろきょろしたがすぐにお目当ての人物を見つけたようで、静間を無視して脇をすり抜けて走つていった。

静間はよく状況が飲み込めないようで呆然としていた。

「早く来い静間！」

すると洞窟のほうから呼ぶ声が聞こえたので静間を走つていった。洞窟に着くと、奥から大地が出てきた。

「やあ、無事だつたようだね。そしてこれを飲みなさい」

さつきまでの恐怖が嘘のように大地の顔はさわやかで挨拶し、何か赤い液体の入つたビンを渡してきた。

静間は軽い態度の大地に半分位本気の殺意を抱きながらビンを受け取つて飲み干す。

「苦い。なんだこれ？ 寒くなくなつたぞ？」

飲んですぐにさつき寒かつたのが嘘のように無くなつた。
それどころか暖かいくらいだ。

「さつき見ず知らずの男の人と女の人人がくれた」

「知らない人に物もらつちゃつていいのか？」

「いつも常識無いのか？ つて目で大地を見る。

「なんか『選ばれし者よ。よくぞ来てくださつた』つて言つてたからもらつていいもんじやないの？」

「それならいいのか？」

静間は頭に？をうかべていた。

そんな感じでしばらく静間が悩んでいると、

「『無事ですか？ お一方』

男の声が聞こえてきた。

声のしたほうを見ると、そこには赤い鎧に身をつつんだ男と女がいた。

男は背中に刀を差し、女は銃を背負つていた。

「無事だよ～」

大地が手を振りながら軽いノリで返事をしている。

その横で静間はいろいろと考え事をしていた。

「あなた達は、いったい何なんですか？ そしてここは何処なんですか？」

だがすぐに考えるのをやめ、口を開き、男と女に聞いた。

「これは失礼しました」

男は軽く頭を下げて、説明を始めた。

「私達はハンター、」

1話（後書き）

「はあ、取験生がこんなことしたら黙田だらう」 と、思いつつ書いているこの作唱。

その前にメインの歌成れかぬよーっとこ「ハシタ パリせなしな方向でお願いします。

面白くなれるよーがござるか」とや~

2話（繪畫版）

色々とゲームしたいにゃ。

「ニニが今日からあなた達に使ってもらひ家だ
「ありがとうございます」

「どもっす」

静間と大地は、家に案内された。

あの説明の後、カルマが村に案内してくれた。

カルマと言うのは男の事だ。

全身赤い鎧（リオレウスの装備らしい）で背中には斬破刀せんぱとと言う刀を装備していた。

顔は兜で覆われていて今も見えないが、声からして30歳前半だろう。

兜の隙間から見える目は全てを見透かしている様に鋭かつた。

女の方は、今まで一言も話していない。

カルマさんに紹介されるまでいたことを忘れていた。

名前はアイル、カルマさんの妻だそうだ。

彼女も全身赤い鎧を着ていた。

そして背中にはヴァルキリーファイヤという銃を装備していた。

兜の前は開いていたので顔は見えていた。

見た目は人形と思うほど綺麗にととのつていた。

あの時ティガレックスという怪物の頭に弾を当てたのはこの人となるとなく分かつた。

なので説明が終わつてから、

『さつきは助けてもらつてありがとうございます』

と静間はお礼を言つてみたものの、

『…………』

とまつたくの無反応だった。

喋れないのかつて聞いたらカルマさんが、

『アイルはクーデレなんだよ』

カルマさんの言葉を聞いたとき静間は危なく吹きかけた。

まさか他の世界にもこちらの言葉があるだなんて思いもしなかつたからだ。

「じゃあ私達は自分の家にもどる。それと装備はその箱に入つてるから着替えといてくれ。今の格好じゃ寒そだからな」
男は部屋の隅にある横1m位で縦60cm位の箱を指差していった。静間と大地はまだこちらの世界に来たまんまの姿だった。

「はい」

大地はフレンドリーに返す。

その返事を聞いてカルマが家から出て行つた。
その後をいてもあんまり意味なかつたんじゃ？と思つアイルが続いた。

「とりあえず現状把握しないか？」

カルマとアイルがかえつた後、着替えてる最中に静間が唐突に切り出した。

「それもそりだなーっと」

大地は胴の鎧を着ながら答えた。

すでに大地は足、腰、胴の鎧をつけていた。

静間はまだ腰だけである。

「つりあえずこの世界だが、なんだかモンスターとか言つのがうようよいるらしいな。さつきあつたティガレックスとか言つのとか」
静間がさつきカルマから聞いた話を覚えてとこだけ軽く話す。

「そのモンスターを狩るのがカルマさんみたいなハンターらしいな

」

大地がその後に続く。

「選ばれたつて事は俺達もそのモンスターかるんじゃね？」

大地が軽いノリで質問した。

「まあこんな装備着てる時点でそうなんだろうなつと、大地はどの武器がいい？」

全身着おえた後、箱に入つている武器を選ぶ。

武器は全部で 11 種類あるみたいだ。

よくこの箱に入るなというツッコミはなんだか世界を壊すのでやめておこう。

種類は太刀、大剣、片手剣、双剣、ハンマー、狩猟笛、ランス、ガ

ンランス、ボウガン、弓となる。

ボウガンには種類が二つある。

ライトボウガンとヘビィボウガンである。

アイルが使っているのはライトボウガンのほうだそうだ。

「俺は弓と大剣がいいな~」

そう言って大地は二つ折りの弓と、大地の身長ほどある大剣を取り出し背負う。

ちなみに言うと大地の身長は 186 cm である。

どうやって入ってるんだというツッコミはやめておこう。

「じゃあ俺は太刀でいいか」

すぐ目についた太刀を選んでそれを取り出した。

2話（後書き）

さて、これからそろそろ本格的にスタートか！？
受験とメインの木浚塚をそつちのけでそのまま進むのか！
さあこの先が見ものですよ！（銃声

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5018d/>

モンスターハンター 二人の道

2010年10月11日22時11分発行